

平成27年度いじめ対策等生徒指導推進事業

生活困窮世帯への相談援助・ソーシャルワーク機能を有する
フリースクールの試行的運営事業
報告書

2016年3月

特定非営利活動法人アスイク

目次

- 1 事業の概要
 - 1.1 事業の背景
 - 1.2 事業の内容
- 2 実施結果
 - 2.1 事業評価の結果
 - 2.2 相談支援のケース例
 - 2.3 eラーニングの概要と有用性
- 3 まとめ
- 4 資料編
 - 4.1 業務フロー・ツール類
 - 4.2 関係機関一覧
 - 4.3 協議会の開催

1. 事業の概要

1. 1 事業の背景

不登校と貧困は密接に関係していることが明らかになっている。たとえば、都内のある自治体で行った調査では、一般世帯の不登校率 2.41%に対して、被保護世帯の子どもの不登校率は 11.58%と、5 倍近い出現率だった（出所：浅井春夫他編「子どもの貧困」、明石書店、2008 年）。また、当団体は仙台市や岩沼市と協働で、生活困窮家庭の子どもの学習・生活支援事業を実施しているが、事業に参加している中学生約 200 名の内、10%近くが不登校であり、仙台市の中学生の不登校率 2.99%に対して、3 倍以上の出現率である。

貧困を背景とした不登校児童の多くは、家庭内の環境や保護者との関係などに深刻で、複雑な問題を抱えているため、これらの子どもたちの社会的な自立を支えていく上で、保護者や家庭環境等を含めた包括的な支援が不可欠である。しかし、既存の民間フリースクールでは、福祉的な相談援助やソーシャルワークの専門性を有する組織はほとんどない。

そのため、当団体が震災後から進めてきた生活困窮家庭の子どもへの学習支援、保護者への生活支援事業のノウハウやネットワークを活用したフリースクールを立ち上げることで、福祉的な専門支援を提供できるフリースクールのモデルを提示したい。

また、貧困を背景とした不登校児童の中には、DV によって居住地を転々と移動していたり、長期の引きこもりであったりしたため、極度の低学力である子どもも珍しくない。そういった子どもたちの基礎学力の向上を支える上では、高度な専門性が必要になるが、民間のフリースクールでは、学習指導に関する専門性をもった人材を確保することは困難である。

そのジレンマを解消するための一つの方策が、e ラーニングの導入である。日本でも先進的な e ラーニングシステムを取り入れることで、不登校になった時期や学習のペースが異なる子どもたちに、それぞれの状況・ニーズに合った学習サポートが可能になる。それによって、一度不登校になった子どもたちの選択の幅が広がることが期待される。

1. 2 事業の内容

■ 実施内容

仙台市内に1ヶ所のフリースクールを立ち上げ、主に生活困窮家庭（生活保護、児童扶養手当、就学援助受給等）の不登校児童を受け入れる。

フリースクールでは、後述のeラーニングを活用した学習支援に加え、外部の市民ボランティア等との連携による講座（アート、音楽、スポーツ等）、地元企業や町内会等との連携による就労体験など幅広く企画するが、基本的には子どもが自分の意思で選べる（あるいは企画する）ことを大切にする。

上記の日常的活動に付随して、子どもや保護者への継続的な相談支援も実施。子どもが抱える問題の背景にある課題を把握し、状況によっては連携している他機関へリファーする（例：児童相談所、就労支援事業、家計相談支援事業等）。慎重な対応が必要となるケースも想定されるため、定期的に外部の児童福祉等の専門家を交えたケース会議を開催し、支援の質を高めると同時にトラブルの発生を未然に防ぐ。

■ 開催時間

月曜～金曜 10:00～17:00

■ 実施場所

仙台市宮城野区榴岡 4-5-2 大野第2ビル2階

■ 対象・定員

仙台市内の不登校状態にある小学生～20歳までの子ども・若者（定員20名）

■ 利用者の募集方法

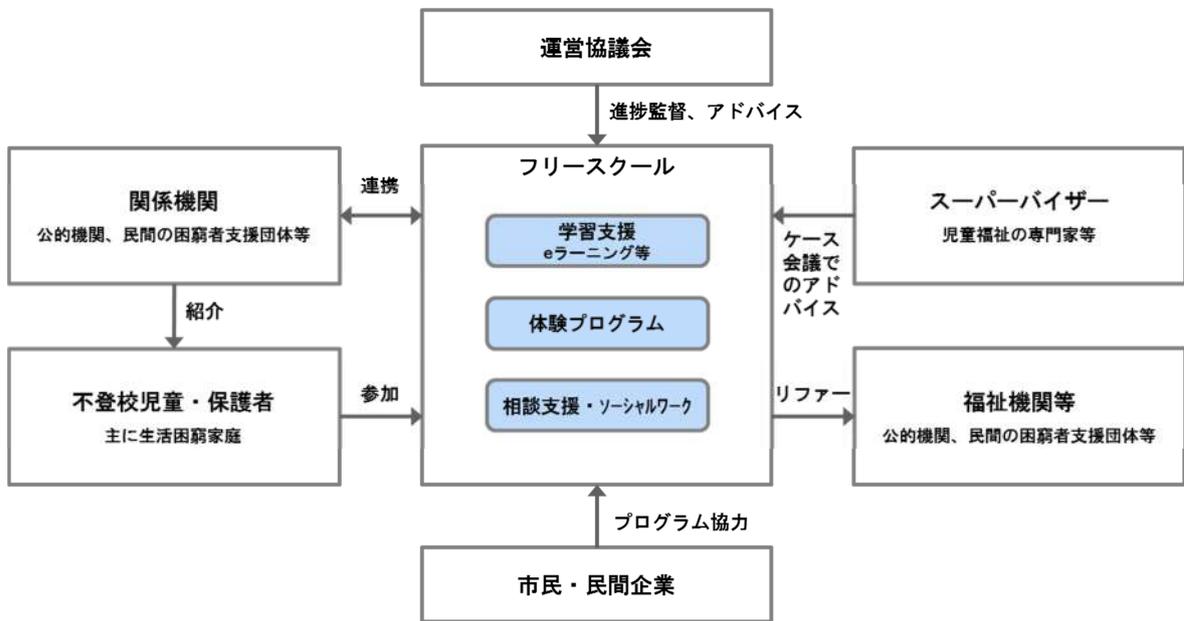
- 仮設住宅での学習サポート事業、仙台市との協働事業で既に関係のある不登校の子ども、保護者への個別の提案
- 公的機関との連携（適応指導センター、福祉事務所、児童相談所、各区家庭健康課、児童館等）
- 民間の困窮者支援団体との連携（パーソナルサポートセンター、チャイルドライン等）

■ 実施体制

(内部体制)

担当者	担当業務	資格・経験・能力
大橋 雄介	事業企画・進捗管理 外部機関への渉外・連携	代表理事 内閣府地域社会雇用創造事業等、行政受託事業のプロジェクトマネジメント経験多数 仙台市協働まちづくり推進委員会委員
下總 春菜	子どもへのサポート、相談支援	自立援助ホームにて児童支援員を経験。社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格。
小林 望美 (非常勤)	子どもへのサポート、相談支援	若者支援 NPO でのインターンシップ、フェアトレードショップの店長を経験。
猪狩 奈月 (インターン)	子どもへのサポート、相談支援	東北福祉大学在学
鈴木 康真	保護者への相談支援・専門機関とのつなぎ	社会福祉士。仙台市の生活困窮者自立相談支援事業にて、相談員等を経験。
泉山 祐子	保護者への相談支援・専門機関とのつなぎ	仙台市の子ども相談支援センターにて主任相談支援員を経験。

■ スキーム



2. 実施結果

2. 1 事業評価の結果

本事業では、何をどの程度実施したか（アウトプット）だけでなく、それによってどのような成果・変化が生まれたか（アウトカム）まで測定した。

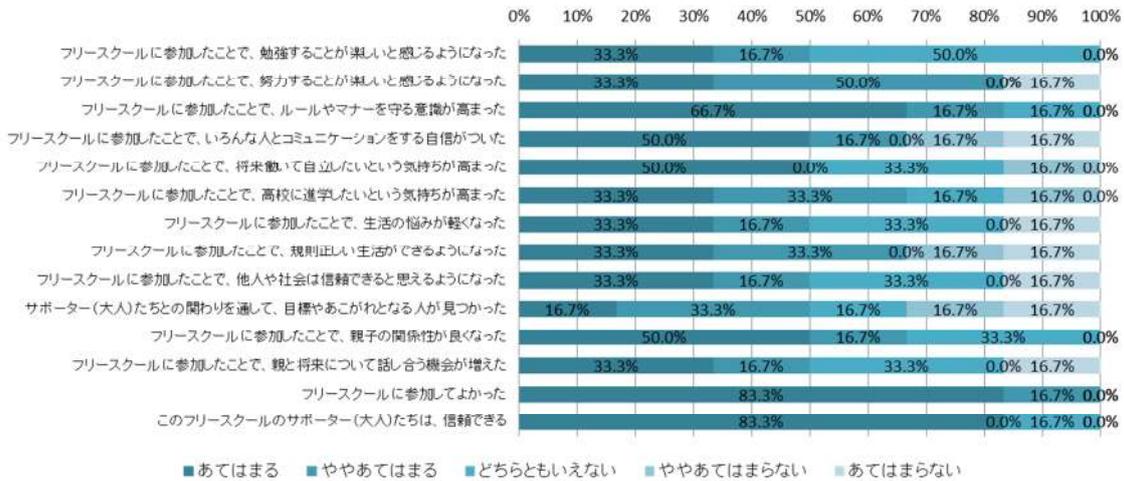
アウトカムでは、貧困の連鎖に関する知見を元に指標を設定（参考文献：阿部彩（2014年）「子どもの貧困Ⅱ」、岩波新書）。具体的には、「学力・学歴」だけでなく、「自尊心・意欲」、「福祉依存（の改善）」など、将来の貧困に影響を及ぼし得る多様な指標を設定し、子どもや保護者へのアンケート結果等を活用して測定を行なった。

なお、このフレームワークは、当団体が仙台市、岩沼市と協働で実施している生活困窮家庭の子どもの学習支援事業における事業評価のフレームとほぼ同じであり、当事業の目標数値は、2013年度の実績をベースに設定した。

<事業評価のフレームワークと結果の概要>

観点	要素	指標	定義	測定方法	実績	目標値
アウトプット	教室運営 (量的側面)	拠点開設数	何ヶ所の拠点(教室)を開設したか	---	1ヶ所	1ヶ所
		参加者数	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	9人	20人
		カバー率	事業実施地域の対象者をどれだけカバーしたか	参加者数/地域内対象人数	1.1%	2.5%
		開催回数	延べ何回(日)の活動を行なったか	記録表による集計	151回	200回
		開催時間	延べ何時間の活動を行なったか	記録表による集計	1,057時間	1,400時間
	教室運営 (質的側面)	出席率	子どもがどれだけ継続的に参加したか	実際の参加日/参加申込日	46%	60%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	11%	5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	延2人	延40人
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けの研修会を何回開催したか	記録表による集計	4回	3回
		研修会参加人数	延べ何人のボランティア・スタッフが研修会に参加したか	記録表による集計	3人	60人
	課外プログラム	課外プログラム開催回数	課外プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	22プログラム	5プログラム
		課外プログラム参加人数	何人の子どもが課外プログラムに参加したか	記録表による集計	80人	延50人
保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	8人	---	
	専門サポートへのつなぎ件数	面談の結果から、何件のケースを適切な専門サポートにつないでいたか	記録表による集計	8件	---	
アウトカム	学力・学歴	基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結果	英語: 9.3点 数学: 0.3点	英語: 15点 数学: 10点
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート	肯定: 50%	肯定: 70%
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		肯定: 83.3%	肯定: 70%
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		肯定: 83.3%	肯定: 70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		肯定: 66.7%	肯定: 70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		肯定: 50%	肯定: 90%
	文化資本	進学への意欲	参加したことで、高校・大学に進学しようという意識が生まれたか		肯定: 66.7%	肯定: 70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		肯定: 50%	肯定: 60%
		生活習慣の改善	参加したことで、登校日数が増えたり、規則正しい生活ができるようになったか		肯定: 66.7%	肯定: 50%
	社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		肯定: 50%	肯定: 70%
		ロールモデル	ロールモデル		スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか	肯定: 50%
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか		肯定: 66.7%	肯定: 60%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか		肯定: 50%	肯定: 50%
	満足度	活動への満足度	参加者が活動に対して、どの程度満足できているか		肯定: 100%	肯定: 90%
サポートへの満足度		スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか	肯定: 83.3%		肯定: 90%	

<補足資料：子どもの意識について>



- ・ 「フリースクールに参加してよかった」、「このフリースクールのサポーター（大人）たちは信頼できる」といった項目ではポジティブな回答がほとんどを占め、子どもたちの満足度は高い。
- ・ 「努力することが楽しいと感じるようになった」、「ルールやマナーを守る意識が高まった」という項目についても、ポジティブな回答がほとんどを占めた。
- ・ 「勉強することが楽しいと感じるようになった」、「将来働いて自立したいという気持ちが高まった」、「生活の悩みが軽くなった」、「他人や社会は信頼できると思えるようになった」、「目標やあこがれとなる人が見つかった」、「親と将来について話し合う機会が増えた」といった項目では、ポジティブな回答は半分にとどまった。

<補足資料：子どもの定性的な変化>

- ・ 「どっちでもいいです」と自分の意見をなかなか出さないAさん。保護者からは勉強をやれと言われており、本人も目標を「勉強をする」としたものの、1週間登校しなかった。次に登校した際に、Aさんにフリーマーケットの担当を任せることにすると、計画立てや予算の管理、ニーズの把握や接客などを自主的に行い、フリーマーケットではもちろんのこと、それ以外の日常でも生き生きとした表情を見せるようになった。
- ・ 発達障がいの特徴があり、相手の気持ちを考えて発言することが苦手なBさん。フリーマーケットや食事づくりなど多数のカリキュラムに参加したことによって、自分の意思で何をしたいか、したくないかを言えるようになった。また、フリースクールを居場所として認識しており、「家にいるよりもフリースクールにいた方が居心地がいい」と笑顔を見せることが多くなった。

<補足資料：フリーコメント>

(スタッフたちに伝えたいこと)

- ・ いつも、笑顔で話しかけてくださったり私の悩み事やおはなしを聞いてくださりありがぼうございます^^♪ 最近は来る日が少なくなっていますが心配してお電話してくれたのはとっても嬉しかったです!! 本当に、いつもいつもありがぼうございます^^* これからも宜しくお願いします。
- ・ 学校の事殻家庭の事迄，相談に乗って呉れて有難う御座いました，
- ・ いつもありがとうございます！

(もっと改善してほしいこと)

- ・ 子供同士での交流⇒大人を間に挟まない（やることを伝えたら子どもたちだけでやる）
- ・ ありません！ 私のありませんは最高のほめ言葉ですよ♪ 満足してます！

<活動風景>



(フリーマーケット)



(企画会議)



(体育館で運動)



(eラーニングで勉強)



(新聞づくり)

否定文の語順 (主語が3人称単数の場合)

短縮形 don't

① I **do not** know him.

主語 + **do not** + 一般動詞 + 目的語 .

② He **does not** know you.

※ doesはdoに3単現のSをつけたカタチ

主語が3人称単数の場合

短縮形 doesn't

(eラーニングさららの画面)



(アニメ鑑賞会)



(食事会)

2. 2 相談支援のケース例

【ケース 1】

(1) ケースの概要

・生徒は中学3年生の女儿(以下本人)。本人、父、母、中1の弟の4人暮らし。本人が部活内でいじめを受け、学校に行けなくなったことからフリースクールへ通い始める。インターク時に父は就労しているが継続治療が必要な疾患を患っていること、母がうつ病であることなどの情報があつた。

(2) 介入の方法

・フリースクールのスタッフが夜遅くまで本人が家事をしていることを聞き、相談支援スタッフにつなぐ。本人に現在の状況を聞くと、父が緊急入院してしまい、母がその看病で病院通いをしている状況がわかつた。家事負担軽減のために家族支援をしたい旨を本人に伝え支援の方向性を共有し、母からのアセスメントを実施した。

(3) 介入のポイント

・母からのアセスメントの結果、父の病状が思わしくなく、母がショックを受けうつ病が悪化していることがわかる。母は障害福祉サービスを利用していなかつたため、行政に支援を依頼し、ホームヘルプサービスなどの利用を依頼する道筋を立てた。

・また、母が状態が悪いにも関わらず、病院まで自らの運転で行き帰りしていることもあり、移動中の事故等もリスクが高いと判断した。行政に事前相談したところ、タクシー券の申請が精神障害者手帳取得後に可能であることがわかつた。

(4) 支援における困難さ

・行政の支援協力も得られ、あとは母が行政に連絡をすれば上記の支援がスタートできる見込みであつたが、母は体調の優れない日が多く連絡を取るまでに至らなかつた。つなぎ部分の支援も実施できればより丁寧であつた。

(5) 介入の結果

・父は引き続き闘病生活を送っているが退院することができた。それにより母の精神状態は(一時的ではあるが)上向き、これまでのように家事ができるまでになつた。そのため、本人が遅くまで家事を担うことはなくなっているが、うつ病の母が担っている家事負担は大きいため、再度家族力が低下した時に今回のセーフティーネットが使えるように引き続きの家族への伴走支援が必要。

※支援対象者の特定を防ぐため、当ケースは事実と大きくかい離しない程度に脚色を加えている。

【ケース 2】

(1) ケースの概要

- ・生徒は中学 2 年生の女兒(以下本人)。本人、母、成人した姉の 3 人暮らし。
- ・仙台市の学習支援事業に申し込みがあり支援を開始。インテーク時に本人の発達障害疑い、姉が高校卒業後からひきこもりの状態であることがわかる。本人は学校での友人関係に疲れてしまい中 1 の 3 学期より不登校になる。

(2) 介入の方法

- ・相談支援スタッフが母から本人の発達障害の状況を伺った際に家計の話となり、日用品の支払いにも苦慮している状況がわかった。引き続き話を聞いていくと、元夫からの養育費の支払いが滞っており、母のパート収入と児童扶養手当のみで生活しているようであった。
- ・ひきこもり状態であった姉に対しては就労支援として「パーソナルサポートセンター」につなぎ、コミュニケーションの方法やビジネスマナーなどを学びに継続して通っている。

(3) 介入のポイント

- ・生活保護は以前に考えたことがあると話されていたが、保護課の窓口で相談することへのハードルが高く感じられるとのことで、実際には相談できていないと話していた。「相談すること」のサポートという伴走支援が実施できるかが鍵であった。

(4) 支援における困難さ

- ・困窮の度合いは高かったため、家賃が住宅扶助の範囲内であるか、親族やパート先などに保護受給の情報が知られてしまうのか、受給によりどのような制限がかかるのかなど不安に思うことを一つずつ解決しながらもスピード感を持ってつなぎを実施する必要があった。

(5) 介入の結果

- ・保護課へ同行し、生活保護の担当へつなぐことができた。転居や転職も必要なく生活への影響はほとんどなかった。補足ではあるが、受給前と後では家計に約 10 万円の差があった。
- ・また、姉もひきこもり状態に戻ることなく、支援場所を移して就労訓練を続けている。

※支援対象者の特定を防ぐため、当ケースは事実と大きくかい離しない程度に脚色を加えている。

2. 3 eラーニングの概要と有用性

(1) eラーニングの概要

近年、タブレット端末等の普及、デジタル教材に対する心理的な抵抗の低下等を背景に、さまざまな企業が学習用 eラーニングを開発している。当然その特徴、質などは千差万別であり、eラーニングと一口にまとめて語ることはできないものでもある。

当事業では、株式会社すららネットが開発、提供している eラーニングすらら（以下、すらら）を導入した。すららを選定した理由は、大まかに下記の点である。

- ・ 主に低学力の子どもたち向けに開発されており、基礎学力が身につけていない不登校児童の状況にマッチする可能性が高いこと
- ・ 元々がリーズナブルな価格設定だが、さらに NPO や低所得層向けの利用に関してディスカウントをしていること
- ・ 既に全国 60 の学校、600 以上の学習塾で約 28000 人が利用しており、その品質が実社会への普及を通してある程度実証済みであること
- ・ 中高生の内容がメインだが、小学生段階の履修内容も含まれており、児童がつまづいたポイントまで遡って学習ができること
- ・ 学力診断テストの機能が含まれており、児童がテストを受けることで学力のアセスメントが容易にできること、また before-after の得点比較ができること



(図①)



(図②)

また、その他のすららの特徴としては、なじみやすいアニメーションのキャラクターが分かりやすく解説してくれること（図①）、教材側から随時質問を投げかけてくるため、ただ聞いているだけでは進めない設計になっていること（図②）などがある。

それ以外にも利用者同士の交流を促すことで動機づけを行なうソーシャルエール機能、目標設定を効率的に行なうことができるラーニングデザイナー機能など、多様が特徴があるが、詳しくは同社 web サイト (<http://surala.jp/>) をご参照されたい。

(2) eラーニングの有用性

それでは、実際にフリースクールを利用する児童にとって、eラーニングはどのような有用性が見られたのか。学力診断テストのデータに基づいて提示したい。

<利用者の学力の変化>

利用者	学年	利用期間	参加時		年度末		変化	
			英語	数学	英語	数学	英語	数学
A	中学3年生	3ヶ月	28	21	43	28	15	7
B	中学3年生	7ヶ月	19	18	30	16	11	-2
C	中学2年生	7ヶ月	22	19	24	15	2	-4
平均	---	5.6ヶ月	23.0	19.3	32.3	19.7	9.3	0.3

※ 「すらら」に搭載されている学力診断テストによる得点。学力診断テストは参加時点と年度末に同じ範囲のものを受けている。教科学習への拒絶、障がいなどによって学力診断テストを受けられなかった利用者は除外している。

- ・ 平均した得点の変化は、英語で+9.3点、数学で+0.3であり、数学ではほとんど変化は見られなかったものの、英語では明確な変化が見られた。
- ・ 利用者によって得点変化のバラつきが大きく、10点以上向上した利用者もいれば、ほとんど変わらなかった利用者もいた。
- ・ 上記の背景として、当然のことではあるが、ある程度教科学習への意欲、取り組んだ時間があった利用者は得点が向上しており、ほとんど教科学習への関心を示さなかった利用者は変化していなかった。
- ・ eラーニングの利点として、利用開始時点で興味を引き出しやすいという特徴がみられる。ただし、その後の継続的な活用につながるかは利用者の意欲によるところが大きく、何らかの目標がある利用者に対しては効果的に活用できる可能性があることが示唆される。

3. まとめ

■ 福祉的介入の有効性

本報告書で取り上げた2つのケースのように、保護者、家庭環境に対して介入することは、不登校の子どもの回復を支えていく上で非常に重要である。そのため、本事業のような福祉的支援を行なうことができるフリースクールが増えることに社会的意義があることには疑いの余地はないだろう。

■ 運営体制と人件費の確保

現場で子どもと日々接するスタッフが保護者、家庭環境に対しても福祉的介入を行なっていくことは、キャパシティの問題からも困難である。そのため、現場のスタッフと福祉スタッフをそれぞれ確保する必要があるが、そのためには当然人件費も高くなる。他方、生活困窮家庭の利用者が増えれば事業収入の面では苦しくなるため、このギャップをどのようにして埋めるのかが大きな課題となる。

■ 利用者拡大のための認知ルートの構築

教育委員会や学校が不登校の子どもに対して、民間フリースクールを紹介することはほとんどないのが実情である。また、当事業に参加している家庭には、教育委員会や学校との関係が非常に悪化しており、社会的にも孤立していたケースが目立った。こういった現状を鑑みると、家庭にフリースクールを認知してもらうルートをどのように作るのかは大きな課題である。

当団体の場合は、福祉部局と協働で実施している学習支援事業からリファーされたり、日々連携しているみやぎ生協の地域代表理事、エリアリーダー等から紹介されるなどのルートがあることが特徴だと考えられるが、こういったルートがない場合は各フリースクールが独自に地域に根差した認知ルートを構築する必要があるだろう。代表的な例として、親の会をつくることが考えられるが、生活困窮世帯の場合、トリプルワークなどによって時間的な余力がなかったり、精神的な疾患等で外出もままならないなどのケースが良くあるため、そういった現状に十分配慮した取り組みが必要である。

■ 拠点型では対応が難しい対象者へのアプローチ方法の構築（アウトリーチ）

本事業においても、保護者からの問合せ、見学をいただいても、その後に利用につながらなかったケースはいくつかあった。子ども側の意向やスタッフ側の安全管理、専門性などにも十分配慮するという前提の上で、訪問型、あるいは遠隔でのサポート方法を構築することは重要である。上記の安全管理や専門性を考慮すれば、当然人件費等の運営コストが上昇するため、資金面での課題を克服しなければならない。

4. 資料編

4. 1 業務フロー・ツール類

当事業では、生活困窮世帯への相談援助、ソーシャルワーク機能を有するフリースクールの試行的運営を通して、他地域のフリースクールも活用できる業務フロー、ツール等を作成した。ここに掲載しているすべての業務フローやツール類がそのままのカタチで他機関でも利用できるとは限らないが、必要に応じて地域の状況や機関の運営方針に応じてカスタマイズしていただければ幸いである。

No.	運営マニュアル	
1	業務フロー（利用開始まで）	
2	業務フロー（利用開始から）	
3	時間割	
4	スタッフの1日の流れ	
5	フリースクールスタッフからのお願い 事	
6	面談の流れとトーク例 （初回個別支援計画）	
7	〃（初回保護者面談）	
8	〃（評価・個別支援計画）	
9	〃（保護者面談）	
No	ツール名	使用用途
1	受付表	電話にて問合せがあった際に基本情報を記入する
2	フリースクール体験会申込書	説明会の際に体験することになったら保護者に記入していただく。
3	アセスメントシート	申込みの際に保護者から子どもの特徴など聞き詳しく記す。
4	利用意思確認アンケート	体験終了後に利用意思を確認するアンケート。保護者に記入してもらう。
5	入会申込書・規約	入会決定の際に規約説明・申込書を保護者に記入していただく。
6	フリースクール個人情報提供承諾書	学校や教育委員会に個別支援計画を提出する場合があるため、保護者に同意をいただく。
7	フリースクール利用者一覧・入金確認	利用者の年齢や住所、学習の状況や出席状況、入金チェックも付随している。

8	日々の記録	子どもの個別記録。スタッフが日々入力する。
9	わたしの記録	子ども達が毎日記入する、体調管理やフリースペースを設けているフォーマット。
10	出席表	子ども達が来た時間帰る時間を記入する。今日のお題もあり、話題になるようなテーマを考える。
11	出席カード	子ども達が来た時にスタンプを押すカード。30回分押すことが出来る。
12	服薬表	薬を飲んでいる子どもの朝と昼の服薬時間を記入。
13	子ども用服薬チェック	子ども自身で記入する服薬管理表。
14	個別支援計画	半期の目標を子どもと考え、その目標達成のための支援内容を記入。保護者に開示。
15	個別出席表	在籍校や関係機関に提出するための出席表。来た時間帰った時間、登校日数がわかる。
16	評価シート	個別支援計画の目標の達成度や結果を記入。保護者に開示。
17	こども企画書	子どもがやりたいことを企画し、それに関してみんなで話し合う際に使う。
18	寄付受付表	直接来ていただいた際に記入していただく。
19	物品寄付者一覧	寄付をいただいた方々のデータ入力フォーマット。
20	フリースクール利用料の減免承諾書	入会時減免を了承した家庭に発行。
21	職業体験アンケート	子どものやってみたい職業のアンケート。関係機関などに提出し、職業を探してもらおう。
22	面談記録	児童や保護者との面談の内容を記録。
23	チャレンジシート	目標を立てる際のツールとして使用。

(1) 業務フロー ～利用開始まで～

FS利用開始までの流れ	◀To Do▶	◀作成ツール▶	◀担当者▶		
			相談	常勤	パート
問い合わせ	・『問い合わせ対応』	・受付表	△	○	
見学説明会	・『FS概要説明』	・『FS体験会申込書』(保護者記入)『アセスメントシート』	○	○	
体験会	・『子ども体験会対応』	・体験用「日々の記録」「わたしの記録」「出席表」「フリースクール利用のルール」「出席カード」		○	○
利用意思確認	・『手紙を送付』(保護者)	・『利用意思確認の手紙』		○	
未入会処理	・『データの管理』	・体験用「日々の記録」「わたしの記録」「出席表」「出席カード」を未入会ファイルへ		○	△
利用前面談	・『初回面談』 ・『契約』	・『アセスメントシート』※再編集 ・『入会申込書・規約』『FS個人情報提供承諾書』	○	△*	
			○	△*	

※原則参加

(2) 業務フロー ～利用開始から～

FS利用開始からの流れ	◀To Do▶	◀時期▶	◀ツール▶	◀担当者▶		
				相談	常勤	パート
利用開始	・『児童の言動把握』		・『日々の記録』『わたしの記録』『出席表』『出席カード』※必要な場合「服薬表」		○	○
個別支援計画 作成	・『スタッフ間にて目標設定』	1か月以内	・『個別支援計画』		○	△
保護者面談	・『個別支援計画の合意・署名』	1か月以内	・『個別支援計画』		○	△
個別支援計画確定・スタート	・『個別支援計画実施』	計画出来次第 ※1	・『個別支援計画』		○	○
(目標がある児童)目標設定	・『チャレンジシートの記入』	随時	・『チャレンジシート』		○	○
適応指導センター・在籍校との連携	・『適応指導センター・在籍校への連絡』 ・『在籍校への訪問』	入会から1か月後	・『アセスメントシート』『個別支援計画』『日々の記録』『個別出席表』	○	△	
在籍校への情報提供	・『在籍校へ書類の送付』	次月5営業日までに	・『日々の記録』『個別出席表』		○	△
個別支援計画評価協議	・『個別支援計画のスタッフ間協議』	9月、3月上旬	・『評価シート』		○	△
個別支援計画のリプラン	・『スタッフ間でのリプラン』	9月、3月上旬	・『個別支援計画』		○	△
保護者面談	・『評価の報告』	9月、3月中旬	・『評価シート』		○	△
保護者面談	・『個別支援計画の合意・署名』	9月、3月中旬	・『個別支援計画』		○	△
個別支援計画確定・スタート	・『個別支援計画実施』	10月、4月	・『個別支援計画』		○	○

※1 2月中と8月中に入会した子どもに関しては次の半期の個別支援計画を作成する。

～入会時期による個別支援計画の作成の違い～

	2月	3月	4月	8月	9月	10月
通常のサイクル	実施期間		年度末評価 目標設定	実施期間		中間評価 目標設定
2月・8月入会のパターン	下半期のみ 作成	上半期のみ 作成	上半期分作成		下半期のみ 作成	下半期分作成

(3) 時間割

		月	火	水	木	金
午前	10:00~ 12:00	学習タイム	学習タイム	学習タイム	学習タイム	学習タイム
	12:00~ 13:00	お 昼 休 み				
午後	13:00~ 14:30	トライアルデー 目的 ・様々なことに挑戦することで 新たな自分を発見する ・社会性を身につける ・社会とのつながりを作る 内容 ・フリーマーケット参加するた めの準備 ・職業体験(接客など) ・美術館や科学館へお出かけ ・体験実習(料理やものづくりな ど) ・フリースクール新聞の作成 など	体育館へ行こう! 目的 ・体力の維持・向上 ・広い空間を使った発想の展開 内容 ・運動をする (バスケット、バレー、 卓球、サッカー、ダンスな ど) ・大きい作品の制作 (大きな絵、 ドミノ、巨大ピタゴラスイッ ち) など	持ち込み企画 目的 ・やりたいことが出来ることで 自己肯定感の向上 ・居場所として認識 内容 ・前の週の考察の時間で考えた 企画をみんなで楽しむ (アニメ メ、映画、ドラマ鑑賞、図書 館へ行くなど) など	アクティブデー 目的 ・フリースクール外の方との交 流 ・社会貢献をすることで自己持 定感の向上 ・体力の維持・向上 内容 ・事務所スタッフから依頼を受 け必要なものを制作 ・家事援助ボランティア ・地域のお祭りのボランティア ・季節の行事への参加 など	考察の日 目的 ・企画力を身につける ・計画性を養う ・意見交換を通して柔軟性を養 う 内容 ・一週間の活動の振り返り ・来週の予定の確認 ・企画の発表と計画立て など ・余った時間はティータイム
	14:30~ 16:00					
	16:00~ 16:30	掃 除 タ イ ム				
	16:30~ 17:00	帰 宅 準 備 ・ 帰 宅				
※行事の日程などにより変動する場合があります。						

(4) スタッフの1日の流れ

午前	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの記録」に書いてもらった体調チェックを確認。 ・(朝の服薬時間を聞く) ・子どもが来た時点で子どもの午前中の予定を聞き調整。ボードに書く。 ・午前中の担当者を子どもに伝える。 <p>・(担当児童の気になった点を「日々の記録」に入力)</p>
午後	<ul style="list-style-type: none"> ・昼の時間を利用し、午後みんなの予定を聞き調整。ボードに書く。 ・午後の担当者を子どもに伝える。 ・(服薬チェック) <p>・(担当児童の気になった点を「日々の記録」に入力)</p>
帰宅時間	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の振り返りを「わたしの記録」に記入してもらう。 ・帰宅時間を記入してもらう。 ・次に来る日を聞いたら聞く。
児童帰宅後	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の振り返りミーティング(それぞれ担当した児童の引き継ぎを行う。) 日々の記録の「振り返りでの意見」にミーティングで出た内容を入力。 ・次の日のカリキュラム内容の確認 ・カリキュラムの担当を決める。 例) 午前中の勉強タイムは〇〇さんが担当 それ以外のことは△△さんが担当 午後のカリキュラムは△△さんが担当 それ以外のことは〇〇さんが担当 ・「わたしの記録」にスタッフのコメントを記入

※注意点※

①勉強タイム時やカリキュラムの時はそれをやりたくない子がいた場合、危険なことやそのカリキュラムの邪魔にならなければ何をしてもいい。

ただ、スタッフの人数が少ないこと、こどもたちみんなの意見を一気にやることは難しいので調整が必要なことを伝え、**調整役**としてみんなの意見をまとめてスケジュール立てし、カリキュラムを実施する。

②基本的に子どもだけの外出は認めない。近くにご飯を買いに行くときもスタッフが一緒に行く。(子どもを預かっている以上監督責任が発生するため)

フリースクールスタッフからの お願い事

1. 外出するときは、スタッフに教えて、スタッフとともに出かけましょう。
(皆さんの安全を十分に確保するためです)
2. カリキュラムに参加するかしないは自由に選んでください。もし、カリキュラムに参加しない場合は、そのカリキュラムの迷惑にならないように過ごしましょう。
3. 何かやりたいことがあったら、まずスタッフに一声かけてください。できる限り皆さんのやりたいことを尊重してスケジュールを調整します。

**みんなで楽しく過ごしやすい場所に
していきましょう！**

(6) 面談の流れとトーク例 ～初回保護者面談～

初回保護者面談の流れとトーク例				
・入会して1か月以内に個別支援計画を作り次第面談をする。 ・30分ほどで終了するようにする。				
流れ	時間	概要	トーク例	補足
自己紹介	1分	面談参加スタッフの自己紹介をする	「今日はわざわざ足を運んでくださりありがとうございます。△△と申します。よろしくお願います」	・左のトークに追加して、自分の人となり伝える一言を加えるとよい
目的/流れの確認	3分	面談の目的と流れを伝える	「今日の面談の目的は、〇〇さんの個別支援計画を〇〇さんとともに作成しまして、それを保護者様に確認していただき、もしよろしければご署名をいただいで、この目標を達成するための支援をしていきたいと思っています。よろしいでしょうか？」	
個別支援計画報告	10分	個別支援計画を使った報告	(説明終了後)「〇〇さんの得意なことを生かし、苦手なことややりたいことに関しては、フリースクールでできることを最大限に生かして支援していきたいと思っています」	・前向きな発言を多くする。
報告に対する意見	10分	報告に対する保護者の意見をいただく	「このような計画を作成しましたが、疑問点など何かありますかでしょうか？」	・保護者の意見のくみ取りすぎに注意 ・もし保護者からの要望が子どもの意見と違った場合、子どもと保護者が方向性を決めてもらう。こちらが介入はしない方がいい
(修正)		変更があればすぐに修正する	「ただ今修正してまいりますので、お時間頂いてもよろしいでしょうか？」	
署名	3分	確認後署名をいただく	「こちらでよろしければご署名をいただいてもよろしいでしょうか？」	
面談終了	1分	面談の終了を伝える	「ではこれで終了したいと思います。次回は〇月中旬を予定していますのでまたご協力お願いいたします」「本日はご足労頂きありがとうございます。」	・次回の開催予定日を伝える
合計	28分			

(7) 面談の流れとトーク例 ～初回個別支援計画～

初回個別支援計画 面談の流れとトーク例				
・初回の場合は入会から1か月以内に面談の機会を設ける。 ・きちんと面談の日と時間を前もって決めておく。(急な面談にはしない) ・子どもの集中力を考えて30分に収まるようにする。				
流れ	時間	概要	トーク例	補足
アイスブレイク	3分	場の空気を和ませ、話しやすい雰囲気をつくる	「そんな堅い話じゃないよ！一緒に〇〇さんのフリースクールでやりたいことを確認したかったんだよね～」「普段通りで大丈夫だよ」	・児童が「面談」ということで少し緊張するような状況であるため、温かい雰囲気になるようにする
目的/流れの確認	3分	面談の目的と流れを伝える	「今日の面談の目的は、〇〇さんが今後フリースクールでどういうことをやっていくか、何を目標にするかを明確にしたいと思っているんだ。だから〇〇さんが悩んでいることとかこれしたいということがあったら教えてもらって、それを目標にしていけたらなと思っているんだけどいいかな？」	
ニーズや期待のヒアリング	10分	相手が困っていること、悩んでいること、今後したいと思っていることを、現在の状況も含めて聞く(勉強、生活、自分のことなど)	「何をしているときが一番楽しいかな？」「今何かやってみたくて具体的にあったりするかな？たとえば勉強のこととか趣味のこととか」「勉強は何か苦手とかあるかな？」「何で苦手なんだろう？」「あのとき～したいって言ってなかった？」 「そうなんだね」「そうか～」「なるほど」	・オープンな質問をすると、子どもは広すぎる質問に困惑してしまうことがあるため、一つ一つ単元を分けてできるだけ具体的な質問をする ・面談時の子どもからの発言も大事だが、普段からの言動も本人に確認する
ニーズの調整	5分	上記で聞いたニーズに対して、フリースクールでどのようなことができるかを伝える	「～～がしたいならフリースクールでは口口ができそうだね！」「～～が苦手なら△△からやれば克服できそうじゃないかな？」	・上で聞いた悩みや要望を確認してあげると相手は受け入れられた安心感を持つ ・その上でどんなふうにフリースクールでの活動が役に立つのか伝える
目標の設定	5分	上記で調整したニーズを、長期目標、短期目標へと明文化する	「じゃあさっき出したものをまとめてみよう」「1年間通しての目標は何かいい？」「じゃあそれを達成するための半年間の目標はどういうのがいいかな？」思い浮かばないようなら「これはどう？」「それを達成するためにはどんな目標がいいかな？」	・上で出た話をまとめて目標をわかりやすくしてあげる
不安の確認	3分	最後に言い残したことや、質問がないか聞く	「最後に言い残したことや質問があれば聞きたいんだけど何かあるかな？」「これはどうなんだろう？と思うことがあったら教えてもらいたいんだけどどうかな？」	
面談終了	1分	面談の終了を伝える	「じゃあ今決めた目標が達成できるようにスタッフもサポートするので頑張ってください」	・サポートしてもらえると安心感を与えつつ、意欲があるような声掛けができるとよい
合計	25分			

(8) 面談の流れとトーク例 ～保護者面談～

保護者面談の流れとトーク例				
・9月(上半期)と3月(下半期)中旬に面談の機会を設ける。				
・1時間に収まるようにする。				
流れ	時間	概要	トーク例	補足
自己紹介	1分	面談参加スタッフの自己紹介をする	「今日はわざわざ足を運んでくださりありがとうございます。△△と申します。よろしくお願ひします」	・左のトークに追加して、自分の人となり伝える一言を加えるとよい
目的/流れの確認	3分	面談の目的と流れを伝える	「今日の面談の目的は、前回作成した〇〇さんの個別支援計画を振り返って評価し、その振り返りをもとにまた次の半期の個別支援計画を作成しましたので、それを保護者様に確認していただき、もしよろしければご署名をいただいで、この目標を達成するための支援をしていきたいと思っています。よろしいでしょうか？」	
評価報告	10分	評価シートを使った報告	「(報告終了後)前の半期の評価はこのような結果になりました。」「こういうところは得意なようで、ミスなくやっていました」「こういうところが苦手なようで、苦戦する場面がみられましたが、それでもそれを克服しようとして努力していました。」	・子どもの良かった点、課題を明確に説明する ・子どもを否定しないことが絶対条件。出来ていなくても他にできることがあることを保護者に伝える
個別支援計画報告	10分	個別支援計画を使った報告	「評価シートに基づいて、このような個別支援計画を作ってみました」(説明終了後)「〇〇さんの得意なことを生かし、苦手なことは今までと違うアプローチでやっていたらいいのかなと感じています。」	・前向きな発言を多くする。
報告に対する意見	10分	報告に対する保護者の意見をいただく	「報告はこのようなようになりますが、疑問点など何かありますか?」	・保護者の意見のくみ取りすぎに注意 ・もし保護者からの要望が子どもの意見と違った場合、子どもと保護者で方向性を決めてもらう。こちらが介入はしない方がいい
(修正)		変更があればすぐに修正する	「ただ今修正してまいりますので、お時間頂いてもよろしいでしょうか?」	
署名	3分	確認後署名をいただく	「こちらでよろしければご署名をいただいてもよろしいでしょうか?」	
面談終了	1分	面談の終了を伝える	「ではこれで終了したいと思います。次回は〇月中旬を予定していますのでまたご協力お願いいたします」「今日はご足労頂きありがとうございます。」	・次回の開催予定日を伝える
合計	38分			

(9) 面談の流れとトーク例 ～評価・個別支援計画～

評価・個別支援計画 面談の流れとトーク例				
・9月(上半期)と3月(下半期)月上旬に面談の機会を設ける。				
・きちんと面談の日と時間を前もって決めておく。(急な面談にはしない)				
・子どもの集中力を考えて1時間に収まるようにする。				
流れ	時間	概要	トーク例	補足
アイスブレイク	3分	場の空気を和ませ、話しやすい雰囲気をつくる	「面談は慣れてきたかな?」「最近寒いけど風邪ひいてない?体調大丈夫?」「昨日家帰ってから何かテレビとかみた?」	・子どもが「面談」ということで少し緊張するような状況であるため、温かい雰囲気になるようにする
目的/流れの確認	3分	面談の目的と流れを伝える	「今日の面談の目的は、2点あります。まず1つ、〇〇さんがフリースクールに入って決めた目標が今どこまで出来てるかの確認したいということ。2個目はもし達成が難しそうであれば違う方法を一緒に考えたいということ、新たにやりたいことかできてたら教えてもらって再度目標を立てたいということなんだ。だから半年間で何が出来て何が出来なかったのか教えてほしいのと、前みたいに目標を一緒に考えたいと思っているんだけどいいかな?」	
評価	10分	前の半期分の振り返りを行う	「半年間この目標でやってきたけど1個ずつ振り返ってみようか」「〇〇を半年やってみてこの目標はどの程度できたかな?」「(ほとんど達成できなかった場合)出来なくても全然いいんだよ。それを出来るようになる別の方法を考えれば大丈夫だから」	・子どもを否定しないことが絶対条件。出来なくて落ち込んでいるようならきちんとフォローする
ニーズや期待のヒアリング	10分	相手が困っていること、悩んでいること、今後したいと思っていることを、現在の状況も含めて聞く(勉強、生活、自分のことなど)	「何をしているときが一番楽しいかな?」「今何かやってみたいことって具体的にあったりするかな?たとえば勉強のこととか趣味のことか」「勉強は何が苦手とかあるかな?」「何で苦手なんだろう?」「あ、あのとき～したって言ってなかった?」 「そうなんだね」「そうか～」「なるほど」	・オープンな質問をすると、子どもは広すぎる質問に困惑してしまうことがあるため、一つ一つ単元を分けてできるだけ具体的な質問をする ・面談時の子どもからの発言も大事だが、普段からの言動も本人に確認する
ニーズの調整	5分	上記で聞いたニーズに対して、フリースクールでどのようなことができるかを伝える	「～がしたいならフリースクールでは〇〇ができそうだね!」「～が苦手なら△△からやれば克服できそうじゃないかな?」	・上で聞いた悩みや要望を確認してあげると相手は受け入れられた安心感を持つ ・その上でどんなふうなフリースクールでの活動が役に立つのか伝える ・上で出た話をまとめて目標をわかりやすくしてあげる
目標の設定	5分	上記で調整したニーズを、長期目標、短期目標へと明文化する	「じゃあさっき出したものをまとめてみよう」「1年間通しての目標は何がいい?」「思い浮かばないようなら「これはどう?」「それを達成するためにどんな目標がいいかな?」	
不安の確認	3分	最後に言い残したことや、質問がないか聞く	「最後に言い残したことや質問があれば聞きたいんだけど何かあるかな?」「これはどうなんだろう?と思うことがあったら教えてもらいたいんだけどどうかな?」	
面談終了	1分	面談の終了を伝える	「じゃあ今決めた目標が達成できるようにスタッフもサポートするので頑張ってくださいませ」	・サポートしてもらえると安心感を与えつつ、意欲があるような声掛けができるとよい
合計	40分			

(1) 受付表

受付日						
保護者氏名						
生徒氏名						
性別						
年齢・学年		歳		年		
問合せ理由						
性格						
(聞けたら)						
登校状況						
連絡先						
面談日時						
備考						

(2) 体験会申込書

1. お子様のお名前	
2. 保護者様のお名前	
3. 住所	〒
4. 緊急連絡先	— —
5. 参加予定日	① 月 日 : ~ : ② 月 日 : ~ : ③ 月 日 : ~ :
6. 配慮すべき点	例) ○○が苦手 ○○アレルギー 服薬がある など
7. 備考	

(3) アセスメントシート

				作成日: 年 月 日			
アセスメントシート							
				作成者			
フリガナ 氏名	性別	服薬情報	朝: 有/無 昼: 有/無 晩: 有/無				
服薬詳細	・おくすり手帳の情報等(禁忌、服薬時間、注意点等)						
手帳	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	障がい	知的 / 知的疑い ・ 発達 / 発達疑い ・ 精神 / 精神疑い ・ 身体 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>				
ジェノグラム (家族構成及び家族関係を示した家系図)							
			<input type="checkbox"/> 年齢 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 死亡 <input checked="" type="checkbox"/> 離婚 別居 <input checked="" type="checkbox"/> 結婚 交際 <input type="checkbox"/> 同棲				
			<家族情報> (家族との関係性等ジェノグラムの補足)				
生活歴(子ども本人)				生活歴(家族等)			
保護者の相談悩み・困難など							
子どもに関すること				子ども以外に関すること (保護者自身のこと、経済状況等)			
注意点	(子どもが苦手なこと、避けるべきこと、食品アレルギー等)						
備考							

(4) 利用意思確認アンケート

利用意思確認のアンケート

先日は当法人のフリースクールを体験利用していただき、誠にありがとうございます。お手数ですが、下記のアンケートにご回答の上、期日までにご郵送または本部までご持参いただけますようよろしくお願いいたします。

1. 今後、当法人のフリースクールの利用を希望しますか。当てはまるものに丸を付けてください。

利用を希望する ・ 利用を希望しない

2. 体験利用の満足度として最も近いものに丸を付けてください。

満足 ・ やや満足 ・ やや不満 ・ 不満

3. 体験利用についてのご意見・ご要望などがあればご記入ください。

◎アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

回答期日 年 月 日

(5) 入会申込書・規約

NPO 法人アスイク フリースクール 入会申込書

「利用規約」に同意し、利用会員として入会します。

1. 申込日	西暦 年 月 日
2. お名前 (保護者の方)	(ふりがな)
3. お名前① (お子様)	(ふりがな)
利用者の学年	学校 年生
3. お名前② (お子様 ※複数名の場合)	(ふりがな)
利用者の学年	学校 年生
4. 住所	〒
5. 電話番号 (いつでも連絡可能な連絡先)	
6. メールアドレス (保護者の方。携帯可)	

※ ご記入いただいた個人情報は、関係者外へ開示しないこと、当教室の活動目的以外で使用しないことをお約束します。

※ 当申込書はコピーを取り、1部をご家庭の控えとしてお渡ししますので、大切に保管をお願いします。

事務局記入欄

規約説明担当者 ()

リスト入力者 ()

減免の有無 (有・無)

※有の場合、適用条件(生活保護・児童扶養手当・就学援助・その他)

月額料金 円

担当	事業責任者	経理

NPO 法人アスイク フリースクール 規約

1. 目的

当事業は、不登校児童や社会との接点が希薄な子ども、若者に対して、多様な学びの機会、安心できる居場所、地域とつながる機会等を提供することによって、参加者の自己肯定感の向上、社会の中でより豊かな職業・人生選択を実現することを目的としています。

2. 実施内容

- インターネット教材や持ち込みの教材を活用した教科学習のサポート
 - 野外活動等の体験プログラム
 - ゲームや野外での遊び
 - 子ども同士による運営ミーティングの開催
 - 生活や進路等に関する相談支援 等
- ※様々なカリキュラムは準備しますが、参加するか決めるのはお子様自身であるという姿勢を大切にしています。施設内で自由に過ごすことも認めています。

3. 実施場所

仙台市宮城野区榴岡4丁目5-2 大野第2ビル 2F

4. 開設時間

月曜～金曜 10:00～17:00

※ 月何回でも利用可能です。

※ 登下校時のトラブルには責任を負いかねますのでご了承ください。

5. 休業日

- ・ 毎月最終金曜日(社内会議のため)
- ・ 夏季休業日、年末年始休業日(事前連絡)
- ・ 祝日

6. 利用対象

小学生・中学生 ※高校生以上に関しては、ご相談に応じます。

7. 入会金

なし

8. 会費

月額 40,000 円(消費税別)

- ※ 利用回数に関わらず、月額固定制です。
- ※ 上記の会費は、利用者(子ども)1名あたりの金額となります。
- ※ 月の途中からの利用でも、日割り計算はいたしません。
- ※ 生活保護受給、児童扶養手当受給、就学援助受給等の条件に該当する場合、利用料を減免することもあります。ただし、毎年4月に減免料金の見直しをさせていただきます。

9. 支払い方法

- (ア) 利用料金の支払期日は、翌月1日からの会費を前月末までに支払うこととします(前払い制)。
- (イ) 支払い方法は、指定の口座へのお振込みとさせていただきます(振込手数料はご負担ください)。
- (ウ) 一度お支払いいただいた会費の返却には一切応じかねますので、ご了承ください。

<振込先> ※どちらかご都合のよい口座へお振込みください。

銀行名: 七十七銀行 本店営業部 (金融機関コード:0125、支店コード:100)
口座番号: 普通 7950055
名義: 特定非営利活動法人アスイク 代表理事 大橋 雄介

銀行名: ゆうちょ銀行
記号: 18150
番号: 10038531
名義: トクヒ)アスイク

10. 支払の遅延

会費を当月の末日まで延滞された場合は、利用を中止させていただきます。やむを得ない事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。

11. 秘密保持

- (ア) 業務の処理上知り得た参加者のあらゆる情報を、本人の同意なく、第三者に開示・譲渡・漏洩しないことをお約束いたします。
- (イ) 当フリースクールの活動を支援して下さっている組織への報告のために、活動風景を撮影する場合がありますが、利用者が不利益をこうむることがないように細心の注意を払います。

12. 利用者からの解約

利用者は、利用者の意思で解約することができます。ただし、以下の条件にご留意ください。

(ア) 解約を申し出る場合は、利用停止の1ヶ月前までに申請ください。

13. 利用を休止する場合

何らかの事情によって、1ヶ月以上利用を休止する場合には、事前にご連絡ください。

(ア) 休止期間中は、会費はお支払いいただくことなく結構です。

(イ) ただし、休止が適用されるのは、申請があった翌月分からになります。

例) 9月5日に休止を申請した場合、10月分から支払い免除。9月分は返却いたしません。

(ウ) 利用を再開する場合は、ご連絡ください。ただし、月の途中からの再開でも、当月分の会費は発生いたします。

14. 当団体からの解約

次に記載するような状況になった場合、当団体側から申込者へ利用停止を通告させていただきます。ただし、通告する前に、当団体側と申込者の間で話し合いの機会を持つようにいたします。

(ア) 利用者が他の利用者に対して著しく迷惑をかけ、他の利用者の参加に支障をきたすと判断される場合

(イ) 会費の支払が1ヶ月以上滞納されている場合

(ウ) その他、当フリースクールの目的が阻害されるような事態が発生した場合

15. 事故への対応

当団体では、塾損害保険へ加入すると同時に、不慮の事故が起こらないよう、細心の注意を払って活動を行います。しかし、万が一怪我などの事故が発生した場合は、双方の協議によって円滑に解決することといたします。

以上

(6) 個人情報提供承諾書

平成 年 月 日

NPO 法人 アスイク
代表理事 大橋 雄介 殿

保護者署名 _____
(保護者自署)

フリースクール 個人情報提供承諾書

私は、下記で定める関係者への個人情報提供を、承諾します。

記

当団体が運営するフリースクールにご登録いただいた氏名や住所等の情報及び利用中の記録、個別支援計画等は、必要に応じて在籍校や教育委員会等の関係者へ提供することがございます。その際に、事前に情報提供先とその提供目的を明らかにし、保護者様等の確認を受けてから提供することといたします。ただし、公的機関の訪問調査、監査等で情報の開示が必要な場合にはその限りではございません。

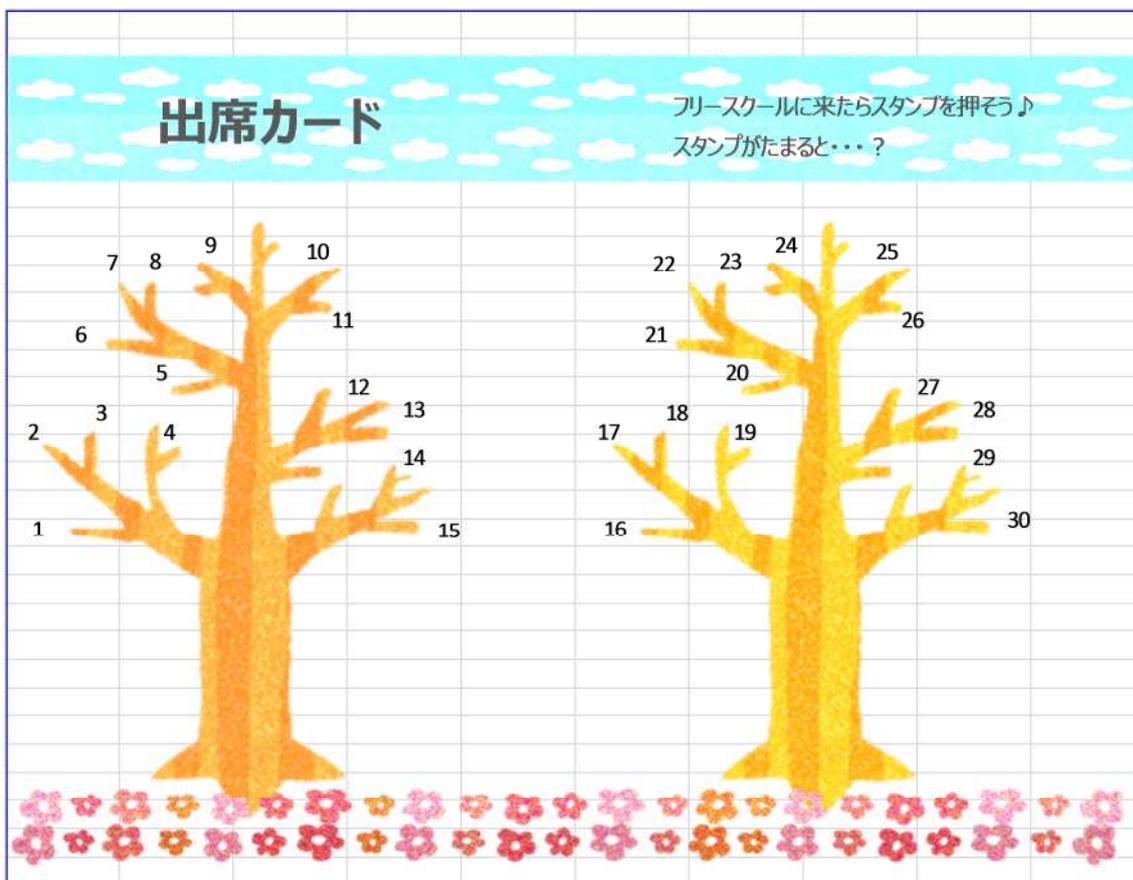
また、怪我や急病の発生時に事前の承諾を得ず、救急隊員等へ氏名や住所、生年月日等をお伝えすることがございます。

以上

(9) わたしの記録

名前				月	日 ()
今日の自分は…					
昨日はきちんと寝れましたか？		熟睡した	ちょうどいい	まあまあ	全く
熱はないですか？		ない	ちょっとあるかも	結構つらい	フラフラ
体はつらくないですか？		ない	ちょっとあるかも	結構つらい	フラフラ
気分はどうですか？		凄くいい	いい感じ	微妙かも…	凄く悪い
自由スペース (何でも書いてOK!)				スタッフ欄	
					
名前				月	日 ()
今日の自分は…					
昨日はきちんと寝れましたか？		熟睡した	ちょうどいい	まあまあ	全く
熱はないですか？		ない	ちょっとあるかも	結構つらい	フラフラ
体はつらくないですか？		ない	ちょっとあるかも	結構つらい	フラフラ
気分はどうですか？		凄くいい	いい感じ	微妙かも…	凄く悪い
自由スペース (何でも書いてOK!)				スタッフ欄	
					

(1 1) 出席カード



(13) 子ども用服薬チェック

薬管理表										
8月						9月				
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
3	4	5	6	7			1	2	3	4
8	9	10	11	12		7	8	9	10	11
17	18	19	20	21		14	15	16	17	18
24	25	26	27	28		21	22	23	24	25
31						28	29	30		
10月						11月				
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
			1	2		2	3	4	5	6
5	6	7	8	9		9	10	11	12	13
12	13	14	15	16		16	17	18	19	20
19	20	21	22	23		23	24	25	26	27
26	27	28	29	30		30				
12月						1月				
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
	1	2	3	4						
7	8	9	10	11		4	5	6	7	8
14	15	16	17	18		11	12	13	14	15
21	22	23	24	25		18	19	20	21	22
28	29	30	31			25	26	27	28	29
2月						3月				
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	2	3	4	5			1	2	3	4
8	9	10	11	12		7	8	9	10	11
15	16	17	18	19		12	13	14	15	16
22	23	24	25	26		21	22	23	24	25
29						28	29	30	31	

(14) 個別支援計画

第 回		作成日：平成 年 月 日										
個別支援計画												
入校日 平成 年 月 日						作成者：						
フカナ 氏名					性別	年齢 学年	歳 学	生年 月	日	平成	年	月 日
主訴												
ニーズ												
概要												
実施期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日												
長期目標												
次期検討時期： 平成 年 月												
短期目標						支援内容						
備考												
保護者署名欄												

(15) 個別出席表

		出席表							平成 年 月分	
日	曜日	登校 時間	外出 時間①	戻った 時間①	外出 時間②	戻った 時間②	外出 時間③	戻った 時間③	帰宅 時間	備考
	月									
	火									
	水									
	木									
	金									
	月									
	火									
	水									
	木									
	金									
	月									
	火									
	水									
	木									
	金									
	月									
	火									
	水									
	木									
	金									
	月									
								登校日数	0	

(16) 評価シート

第 回		作成日：平成 年 月 日										
評価シート												
入校日 平成 年 月 日						作成者：						
フカナ 氏名					性別		年齢 学年 中学	歳 年	生年 月 日	平成	年	月 日
主訴												
ニーズ												
概要												
実施期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日												
長期目標												
次期検討時期： 平成 年 月												
短期目標						評価						
総評												
保護者署名欄												

(17) こども企画書

わたしたちの企画書									
発案者：		参加者：							
やりたいこと									
実現させるためには？									
項 目	内 容								
ex) いつ？	○月○日午後の○○の時間に								
事前に準備しておくこと									

(20) 利用料の減免承諾書

平成 28 年 1 月 15 日

●● 様

特定非営利活動法人アスイク
代表理事 大橋 雄介

フリースクール利用料の減免承諾書

当フリースクールの利用規約に基づき、利用料を下記の金額に減免いたします。
なお、下記の減免適用期間終了後に、再度それ以降の利用料について協議させていただきます。

記

- ・月額利用料： ●●円（税込） ※消費税増税後は金額が変更になります。
- ・減免適用期間： 平成●年●月●日～平成 28 年 3 月 31 日

以上

(21) 職業体験アンケート

<h2 style="margin: 0;">職業体験</h2> <h3 style="margin: 0;">「何をやってみたい？」</h3> <p style="margin: 0;">「こういう仕事やってみたかったんだよね～」とか「どういう仕事内容なんだろう？」 という思い、ありますか？それをフリースクールでやってみましょう！！どんな職業でも 大丈夫です！できるだけ記入してみてください。</p>	
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

※もちろん、みなさんの希望通りになるように努力はしますが、もしかしたら難しい場合
 もあります。その場合は近い仕事になってしまうかもしれません。。。

(22) 面談記録

面談記録

年月日 時間	面談相手	内容(見たこと、聞いたこと、データなど)	実施者

追加情報 (あれば記載)

生物的事象(疾患や障害、発達の遅れ、偏りなど)
心理的・情緒的事象、認知の特徴(不安、希望、感情統制など)
社会性・対人関係の特徴
環境について
《家族》
《学校》
《友人・仲間》

(23) チャレンジシート

チャレンジシート		年	月	分
1か月ずつチャレンジしたいことを自分で書いてみよう！ ネガティブなコメントはNGです！それがやりたいことなら考えが変わっても大丈夫！ 例えば、ハリーポッターの本を読み切る。オセロを5連続する。使ったものは片づけるなど…		名前		
やってみるぞー！	どうだった？	スタッフから		

4. 2 関係機関一覧

生活困窮という切り口の背景には、就労、金銭、医療、障がい、社会的養護、心理的要素など、様々な要因が複雑多様に絡み合っていることが往々にしてあり、地域の多様な社会的資源とのネットワーク、協力体制を築いていくことが不可欠である。

ここでは、どのような社会的資源があり、連携体制を築いているか、あるいはこれから築ける可能性があるのかを示す一覧表を提示する。仙台市を中心とした情報であるため、必ずしも他地域と対応関係にある情報ではないが、それぞれのフリースクールが連携先を探すための一助となれば幸甚である。

テーマ	機関名	連絡先（住所）	対応内容	備考
就労支援	一般社団法人 パーソナルサポートセンター	022-399-9662 (仙台市二日町6-6シャンポール青葉2F)	ハローワーク等で仕事を見つけることが出来ない方に、就労する為に必要な支援や多様な就労先を紹介する。	平日9:00～18:00 (土日祝を除く)
	仙台市母子家庭相談支援センター	022-212-4322 (仙台市青葉区1-3-1アエル29F)	母子家庭を対象に就業自立相談・就業情報の提供・特別相談を行う。 ※養育費や面会交流など専門家による相談も可	火 11:00～19:00 水～土 9:00～17:00 (祝日・休館日を除く)
	せんたい若者サポートステーション (NPO法人 わたげの会)	022-246-9685 (仙台市太白区八本松1-10-18 八本松セントラルハウス102号)	宮城県内在住の15～39歳を対象にした就労支援。各種イベントやキャリアカウンセリング、こころの相談等を行っており、キャリアカウンセラーや臨床心理士が対応にあたる。	平日10:00～17:00
	NPO法人 Switch	022-762-5851（代表） (仙台市宮城野区榴岡1丁目6-3 東口鳳月ビル602)	就労支援（障害福祉サービス）、学生支援（不登校相談、思春期・青年期の就労就学支援）等を行なっている。	平日10:00～16:00 ※相談部門のみ土曜日も開設(要予約)
家計相談 生活支援金貸付 教育支援金貸付	くらしと家計の相談室 (みやぎ生活協同組合)	022-292-5015 (仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8F)	生活資金・家計・借金問題の相談（相談無料）	月～土10:00～17:00 (日祝を除く)
	各区社会福祉協議会	・青葉区社会福祉協議会 (022-265-5260/青葉区二日町4-3 1階) ・太白区社会福祉協議会 (022-248-8188/太白区長町南3丁目1-30) ・宮城野区社会福祉協議会 (022-256-3650/宮城野区原町3丁目5-20 1階) ・若林区社会福祉協議会 (022-282-7971/若林区保春院前丁3-4 別棟2階) ・泉区社会福祉協議会 (022-372-1581/泉区七北田字道48-12)	低所得世帯や障害者世帯、高齢者世帯に対し各種資金貸付と必要な援助及び指導を行うことで、経済的立ち直りと生活の安定向上を支援する。 (総合貸付資金、教育支援資金、福祉資金等)	平日8:30～17:00 (土日祝を除く)
一般相談（女性）	エル・ソーラ仙台 (管理事業課相談支援係)	022-268-8302※問い合わせ専用 (仙台市青葉区中央1-3-1アエル29F)	子育て、家族、心の問題、DV、セクシャルハラスメント、離婚、男女の問題等の相談・支援を行う。	平日9:00～17:00 日曜・祝日・休館日は休み
法律相談	東北生活保護利用支援ネットワーク	022-721-7011	生活保護申請のサポートや奨学金を借り際の注意点の助言等を行っている。(太田伸二弁護士)	平日13:00～16:00 (祝日を除く)
	あすなる法律事務所 (鎌田健司法律事務所)	022-225-4929 (仙台市青葉区一番町1丁目4-30)	債務整理、交通事故、消費者被害、離婚、相続、子どもの問題、刑事事件など幅広く対応。	平日9:00～17:00 (土日祝日を除く) ※鎌田健司弁護士：仙台弁護士会子どもの権利委員会委員長
	NPO法人 ワンファミリー仙台	022-398-9854 (仙台市青葉区二日町4-26パーティールハイツ二日町102)	弁護士による無料相談を実施している。	毎週金曜日13:00～16:00 (祝日除く)

発達障害相談 障害者相談	はあとほーと	022-265-2191 (仙台市青葉区荒巻字三居沢1-6)	こころの健康や精神障害者の保健福祉に関する相談、精神障害に関する知識の普及啓発、専門的な知識に基づいた技術支援や、精神障害者の社会復帰に関するデイクア指導などを行う。	平日8:30～17:00 (土日祝日・年末年始を除く)
	仙台市自閉症相談センター ここねっと (NPO法人自閉症ピアリングセンターここねっと)	022-294-0452 (仙台市若林区遠見塚8-1 若林障害者福祉センター内)	仙台市在住の自閉症など発達障害のある方の地域生活を支援するため、訪問などによる各種相談や交流の場の提供等を行う。	
	アーチル (仙台市発達相談支援センター)	・北部アーチル ※青葉区、宮城野区、泉区在住の方 (022-375-0110/泉区泉中央2丁目24-1) ・南部アーチル ※太白区、若林区在住の方 (022-247-3801/太白区長町南3丁目1-30)	仙台市内在住の方を対象に、脳性麻痺や知的障害、広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群など)、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)など、あらゆる発達障害の方々の相談・支援を行う。	平日8:30～17:00 (土日祝日を除く)
	サポートはぎ (社会福祉法人 仙台市手をつなぐ育成会)	022-746-6881 (仙台市太白区大野田字宮脇10番1号)	障害者とその家族に対する相談・支援。社会資源の紹介や各種申請のサポート等も行う。	
子どもの相談	仙台市児童相談所	022-718-2580 ※相談専用電話 022-219-5111 (代) (仙台市青葉区東照宮一丁目18-1)	仙台市内在住の18歳未満の子どもを対象に、子どもに関する問題のあらゆる相談に応じる。	平日8:30～17:00 (土日祝日・年末年始を除く)
	NPO法人 チャイルドラインみやぎ	022-279-7210 (仙台市青葉区川平1-16-5 スカイハイツ102)	18歳までの子どもを対象にした電話相談事業(子ども専用電話)、東日本大震災で被災した世帯への支援等を行っている。	0120-99-7777 ※子ども専用ダイヤル 月～土 16:00～21:00
	仙台市要保護児童対策地域協議会 実務者会議	022-214-8189 ※仙台市子供未来局子育て支援課	各機関の取り組みと要保護児童の概況等	平日9:00～17:00 (土日祝日を除く)
	少年サポートセンターせんたい (非行相談)	022-266-8655 (仙台市青葉区錦町1丁目3番9号 仙台市役所錦町庁舎2階)	非行や犯罪被害などの問題を抱えた少年の立ち直りを支援。個々の少年の問題に応じた助言や面接指導、学校や児童相談所等の関係機関と連携しながら、少年の立ち直りに向けた継続的な支援を行う。	平日9:00～17:45 (祝日・年末年始を除く)
ひきこもり支援	わたげ (社会福祉法人わたげ福祉会 /NPO法人わたげの会)	・わたげ福祉会 (022-285-3531/若林区遠見塚1丁目18-48) ・わたげの会 (022-246-8457/仙台市太白区八本松1丁目12-12)	ひきこもりの本人・家族への相談・支援。フリースペースや共同生活施設、就労支援事業所を開設しており、自立や社会復帰に向けた支援を行っている。	わたげ福祉会 平日10:00～17:00 (年末年始を除く)
医療機関	仙台オーブ病院 (公益財団法人 仙台市医療センター)	022-252-1111 (代) ※地域医療連携室 (仙台市宮城野区鶴ヶ台5丁目22-1)	地域に密接した医療を展開している。地域医療連携室では自殺予防会議等への出席もしている。	土日祝・年末年始を除く
	東北大学病院	022-717-7618 ※地域医療連携センター (仙台市青葉区星陵町1番1号)	東北地方・宮城県の中心的病院として各地の病院・診療所と連携しつつ、一般的疾患の診断や治療も行う。	平日8:30～17:15 (土日祝・年末年始を除く)
地域支援	榴岡地域包括支援センター	022-297-5906 (仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルエル仙台ビル2F)	主に高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるようサービスを受けるための拠点。高齢者の家庭・生活状況を把握し、支援を行う。	
その他	仙台レインボーハウス (あしなが育英会 東北事務所)	022-797-2418 (仙台市青葉区五橋2-1-15)	高校、大学、専門学校などに通う遺児らへの奨学金の貸し出し、遺児の心のケアのための「レインボーハウス」や学生寮の運営、遺児のケアと教育のための集い等、遺児を物心両面で支える活動を行っている。	

4. 3 協議会の開催

(1) 開催結果

第1回運営協議会

日時：2015年7月22日（水） 17:00～19:00

場所：NPO 法人アスイク事務局（仙台市宮城野区榴岡 4-5-2 大野第2ビル 2F）

議題：

1. 開会の挨拶
2. 議長の選任
3. 各委員のご紹介
4. 情報提供
 - 多様な教育機会確保法試案の概要
 - 仙台のフリースクールを取り巻く現状
 - 平成27年度いじめ対策等生徒指導推進事業の企画内容
 - フリースクールの概要
5. 意見交換
 - フリースクールの運営に対するアドバイス
 - アウトプット（報告書）へのアドバイス
6. 次回の運営協議会開催時期・内容の予告



第2回運営協議会

日時：2015年10月28日（水） 17:00～19:00

場所：NPO 法人アスイク事務局（仙台市宮城野区榴岡 4-5-2 大野第2ビル 2F）

議題：

1. 開会の挨拶
2. 議長の選任
3. 現状のご報告
 - 国の動向
 - フリースクールの活動状況
 - 当事業の成果物の作成状況
4. 意見交換
 - フリースクールの運営に対する意見交換
 - アウトプット（報告書）への意見交換
5. 次回の運営協議会開催時期・内容の予告



第3回運営協議会

日時：2016年2月26日（金） 17:00～19:00

場所：NPO 法人アスイク事務局（仙台市宮城野区榴岡 4-5-2 大野第2ビル 2F）

議題：

1. 開会の挨拶
2. 議長の選任
3. 現状のご報告
 - 法制化の動向について
 - 報告書の素案について
4. 意見交換
 - フリースクールの運営に対する意見交換
 - アウトプット（報告書）への意見交換



(2) 委員名簿

後藤 武俊	東北大学 大学院教育学研究科 准教授 協議会議長
大橋 雄介	特定非営利活動法人アスイク 代表理事 仙台市協働まちづくり推進委員会委員
小澤 義春	みやぎ生協 生活文化部部長、くらしの安心サポート部部長
小林 純子	特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事 仙台市子ども・子育て会議委員
佐藤 圭司	一般社団法人パーソナルサポートセンター 仙台市生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」センター長
高橋 由佳	特定非営利活動法人 Switch 理事長精神保健福祉士・ 産業カウンセラー・職場適応援助者（ジョブコーチ） 宮城県スクールソーシャルワーカー

生活困窮世帯への相談援助・ソーシャルワーク機能を有するフリースクールの
試行的運営事業 報告書

発行日 2016年3月

発行 特定非営利活動法人アスイク

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-5-2 大野第2ビル2階

TEL 022-781-5576
